

# 営農ウィークリーNEWS

## シナチクノメイガの発生に注意してください!!!



▲ 成虫



▲ タケの葉を巻いて食害された症状



▲ 蛹



▲ 幼虫

2024年7月に「タケ類」を、幼虫が葉を加害し、加害された葉が褐変する症状が管内において多く発生しました。

また、農産物としての「タケノコ」に対する影響が、葉の加害と高温や少雨など異常気象によるものが判明しておりませんが、2025年4月末の出荷量としては、前年の半数程度にとどまっています。

2025年1月8日、京都府病害虫防除所より、「植物防疫法第29条第1項に基づく措置(たけのこの

シナチクノメイガに対する防除)」について防除に係る情報が発表されました。

5月下旬に京都府病害虫防除所の誘蛾灯に飛来があり、いよいよ「シナチクノメイガ」の活動時期に入ると考えられます。

防除のタイミングなど、まだ生態の不明な点が多く、圃場における異変や成虫、幼虫の発生、葉の食害など、こまめに日々確認いただき、異変や気になる点など、ご確認をお願い申し上げます。

異変や食害などありましたら、経済部営農販売課まで情報提供をお願い申し上げます。

### TAC information

### 植物防疫法第29条第1項に基づき シナチクノメイガに使用できる防除薬剤の紹介



現在、シナチクノメイガに登録のある農薬はありませんが、植物防疫法(昭和25年法律第151号)第29条第1項に基づき都道府県が行う防疫措置として、タケ類(たけのこを収穫するもの)のシナチクノメイガに対する防除には、当面の間、「エスマルクDF」を使用することができます。

農薬の登録内容(適用病害虫以外の希釈倍数、使用液量、使用回数等)を遵守することで、出荷停止等、流通に支障が生じることはありません。

なお、植物防疫法第29条第1項に基づく措置が終了した場合には、文書及び京都府病害虫防除所のホームページ等でお知らせされますので、最新の情報を確認してください。

# 防除所ニュース

発行 令和7年6月13日

令和7年 第4号

京都府病害虫防除所



ホームページ

## ★トマトキバガによる被害が確認されました★

本年6月、府北部のトマトハウスにおいて、トマトキバガの虫体及びトマトの被害を確認しました。成虫は全長5mm程度、幼虫は最大で全長8mmの小さな蛾ですが、幼虫が葉を薄皮残して食害するとともに、果実の表面を食害します（写真1～4）。

本虫は、遠方から風に乗って飛来してくると言われており、当所が設置したフェロモントラップの調査では過去2年と異なり、本年は4月から誘殺を認めています（図）。

今後トマト等で被害が拡大するおそれがありますので、施設では目合い0.4mm以下の防虫ネットで侵入を防ぎ、剪定残渣はビニル袋で密閉する等適切に処分してください。葉に被害痕が見られる等、発生が疑われる場合は最寄りの農業改良普及センターまたは病害虫防除所に連絡してください。なお、発生を確認した場合、トマトおよびミニトマトでは薬剤防除を行ってください（表）。

※トマトキバガに関する詳細は、当所発表の令和5年10月12日付け「発生予察特殊報第1号」を参照してください。

[https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyuu2023\\_01.pdf](https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyuu2023_01.pdf)



写真1 成虫 (全長5mm程度)



写真2 幼虫 (全長最大8mm、背面に黒色の横帯がある)



写真4 果実の被害



写真3 葉の被害 (薄皮残して食害し、潜り込む)

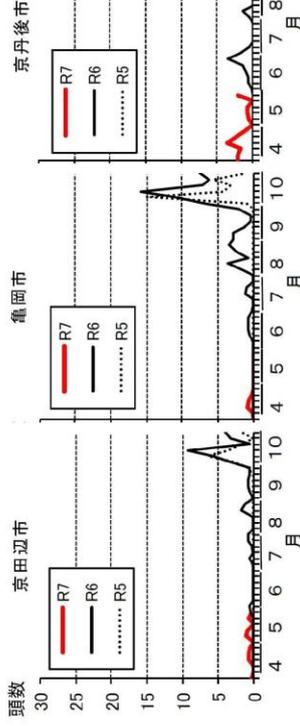


図 フェロモントラップによるトマトキバガの誘殺状況  
表「トマト」、「ミニトマト」でトマトキバガに登録のある農薬（令和7年6月11日現在）

IRAC コード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
5	ディナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ラディアントSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ダフルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内(スピノサド2回以内)
	アファーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	散布	3回以内
	アニキ乳剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
6	アグリオック	500～1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	ミニトマトは登録なし					
11A	エスマルクDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—
	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—
	チューンアップ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—
13	コテツプロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	トルネードエースDF (ミニトマトは登録なし)	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
22A	ファイナルDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ミニトマトは登録なし					
22B	アクセルプロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	ベネビ700	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は3回以内)
28	ペリマークSC	400株あたり25mL 液量・400株あたり 10～20L(1株あたり 25～50mL)	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は3回以内)
	プリロックス粒剤	2g/株	育苗期後半 ～定植時	1回	株元散布	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は3回以内)
	プリロックス粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半 ～定植時	1回	株元散布	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は3回以内)
30	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ヨールフルアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)
UN	グレンジアアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	フレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内

\* 殺虫剤コード。有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号で、本コードが異なる薬剤を使用すると、同一系統の薬剤の運用を防ぐことができる。

注) 農薬の使用に当たっては、ラベルやインターネット等で最新の使用方法や注意事項を確認してください。

また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。